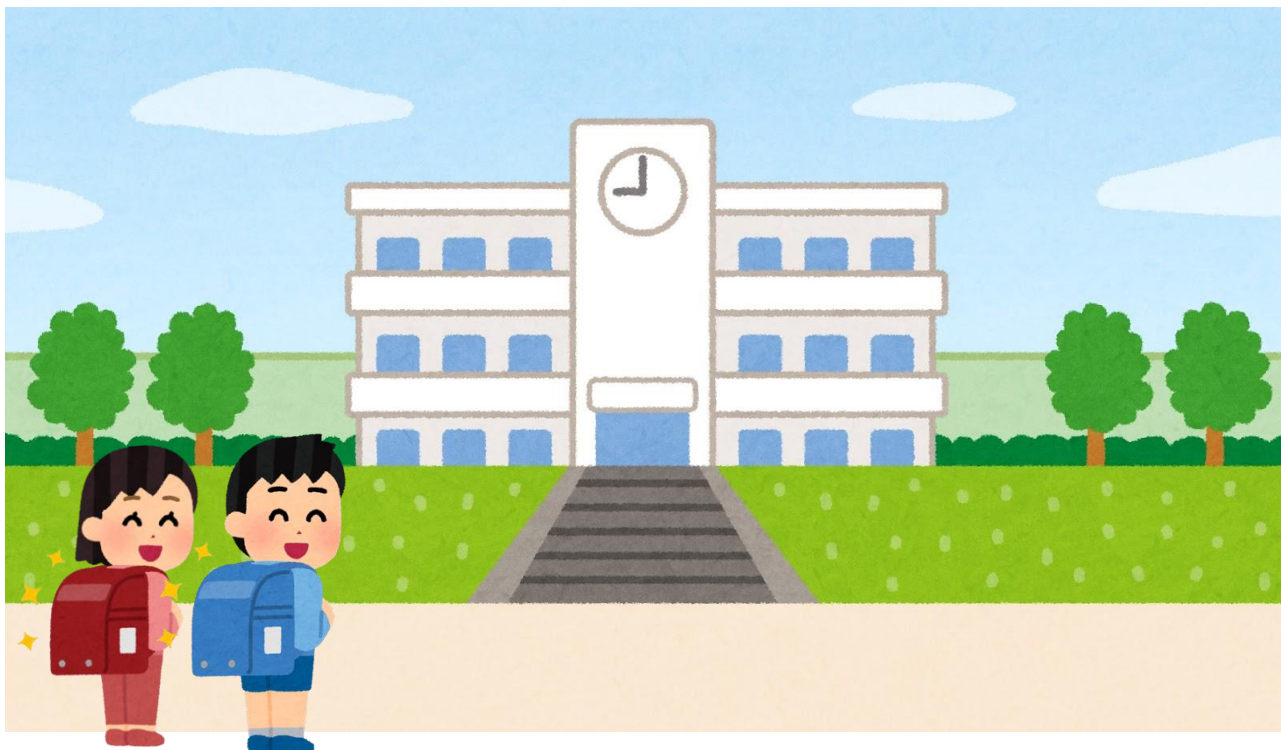


だれもが行きたくなる学級づくり

～日々の取り組みで未然防止～



不登校は、

- 取り巻く環境によって、どの児童・生徒にも起こりうること
- 多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということ
- その行為を「問題行動」として判断してはならないこと

「不登校対策の基本と支援のポイント 誰もが和らぐ学校を目指して～不登校に悩む子どもや保護者への温かな支援～」

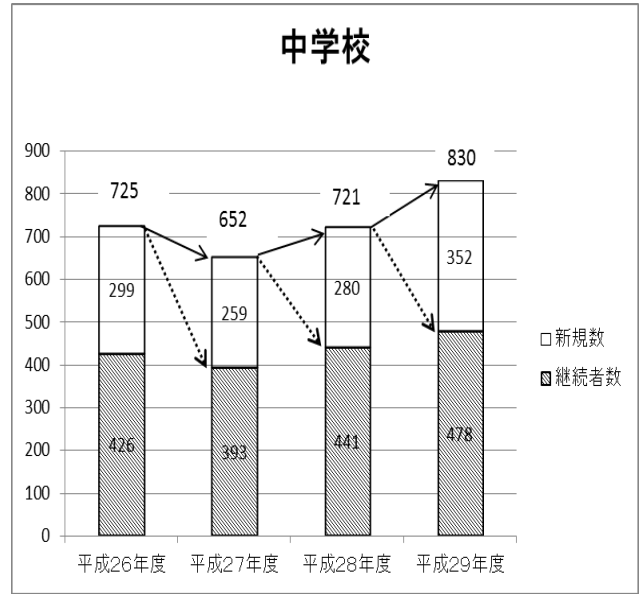
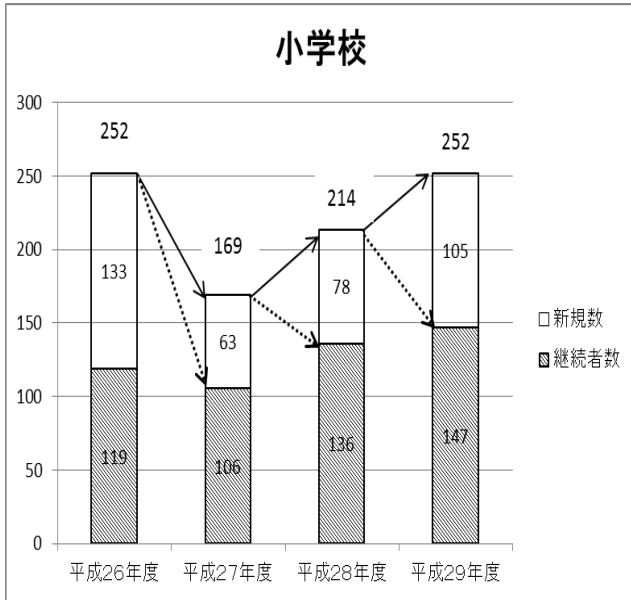
平成 31 年 3 月神奈川県教育委員会より

令和元年7月

相模原市立青少年相談センター

相模原市の不登校の状況

【新規数（新たに不登校になった児童・生徒）と継続者数の経年変化】



【新規数】は、その年度に、新規に不登校になった者（前年度は登校していた者）であり、【継続者数】とは前年度も不登校であった者をいいます。例えば、小学校の平成28年度の不登校者数よりも、平成29年度の継続者数は減少しています。減少した児童が、学校へ復帰したと考えられます。復帰し不登校者数が減少するはずだったところ、それを上回る【新規数】が出たことにより、年々不登校者数が増加しています。このことは、中学校も同様なことが言えます。新たな不登校児童・生徒の増加（新規数の増加）を防ぐことが大切です。

新たな不登校児童生徒の増加を防ぐためのポイントは.....

一人ひとりを大切にした
学級づくり

わかりやすい
授業づくり



一人ひとりを大切にしたい学級づくり

一人ひとりを大切にしたい学級は「自己が大切にされている、認められている等の存在感が実感でき、かつ精神的な充実感が得られる場所」となり、「心の居場所」になります。

【先生の一言や態度が大切です！】



授業中こんな場面を見かけたら、その後どのように対応しますか？



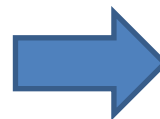
- いつも真面目に取り組んでいるね
- 友だちと協力して活動できていて素晴らしいね
- やるべきことをしっかりとやっているのはいいいね

問題行動は目につきやすく、注意や叱責が多くなってしまい、自己肯定感の低下をまねきます。問題行動の要因は何かを視点を当てて言葉かけをするとよいかもしれません。

当たり前のことを当たり前きちんと取り組んでいる児童・生徒に言葉をかけていますか？できていることや頑張っている過程には、きちんと評価し、言葉をかけていくことが自己肯定感や自己有用感を育むことになります。

【児童・生徒同士の絆づくりが大切です】

児童・生徒が主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童・生徒自らが「絆」を感じ、紡いでいくことを指しています。そのためには、児童・生徒同士の人間関係を把握し、意図的・計画的に学級集団を育てていくことが大切です。



① ペア学習・活動の成立

② グループ学習・活動の成立

③ 学級集団学習・活動の成立

わかいやすい授業づくり

「わかった」「できた」は児童・生徒の自己肯定感につながります。そのためには、一人ひとりの状況に応じた学習支援や、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを進めていくことが大切です。

【ユニバーサルデザインの視点に基づいた支援！】



できていること

できていることや得意なことは、児童・生徒本人の強みです。できていることや強みを活かした支援方法を検討すると、よりよい支援に繋がります。

苦手なこと・困っていること

苦手なことや困っていることに対しては、その要因に応じて、適切な支援が必要となります。まずは、苦手や困り感がどこから来るのか、その要因をしっかりアセスメントすることが大切です。

指導方法について	時間の構造化	<input type="checkbox"/> 日課表・時間割の表示の工夫をしている <input type="checkbox"/> 授業の見通しのために学習の流れを提示している <input type="checkbox"/> 授業の見通しのために時間の視覚化をしている
	情報伝達の工夫	<input type="checkbox"/> 教材の視覚化をしている <input type="checkbox"/> 具体的な表現で言葉かけをしている
	参加の促進	<input type="checkbox"/> 授業に作業的活動を取り入れている <input type="checkbox"/> 授業にペア活動やグループ活動を取り入れている <input type="checkbox"/> 次の課題を準備している <input type="checkbox"/> HELPカードを用意している
	内容の構造化	<input type="checkbox"/> パターン化して学習の進め方を工夫している <input type="checkbox"/> 板書やノートをパターン化している <input type="checkbox"/> 学習内容をスモールステップ化している
学習環境について	場の構造化	<input type="checkbox"/> 教室のものの置き場所を決めている <input type="checkbox"/> 個人所有物の置き場所を明確にしている <input type="checkbox"/> 教材の置き場所を明確にしている
	刺激量の調整	<input type="checkbox"/> 教室の掲示物の工夫をしている <input type="checkbox"/> 刺激となるものや音への配慮をしている
	ルールの明確化	<input type="checkbox"/> ルールの明確化をしている <input type="checkbox"/> ルールの視覚化をしている
	相互理解の工夫	<input type="checkbox"/> 認め合いの場を設定している <input type="checkbox"/> 相互理解による安心できる学級づくりができている

「発達障害のある子どもの理解と支援の手引き」相模原市教育委員会

保護者にも寄り添って

児童・生徒が休み始めた頃は、「うちの子どもは不登校になってしまったのでは？」「勉強が遅れるのでは？」「進路は大丈夫なの？」と保護者の不安も大きくなっています。保護者の話を十分に聞いて、困り感を共有することで、信頼関係も深まります。

また、家庭生活の様子についても聞かせてもらうことで、家庭でできることを一緒に考えることもでき、登校支援につなげることができます。困っていることに対して心理的な関わりが必要な場合等は、青少年教育カウンセラーを案内していただければと思います。相談に繋がりにくい保護者をどう繋げるかといった相談についても青少年教育カウンセラーや青少年相談センターにご相談ください。

